

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

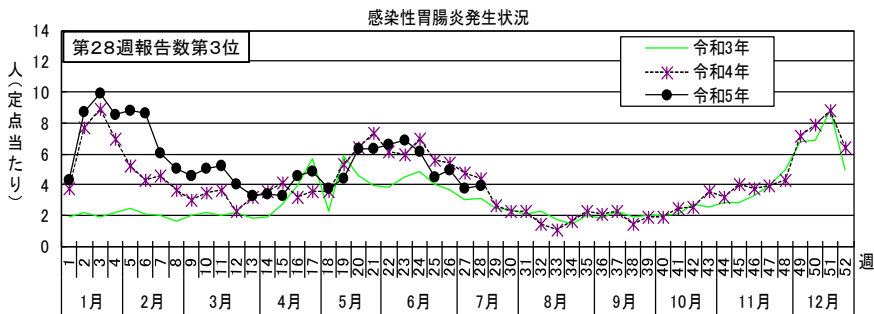
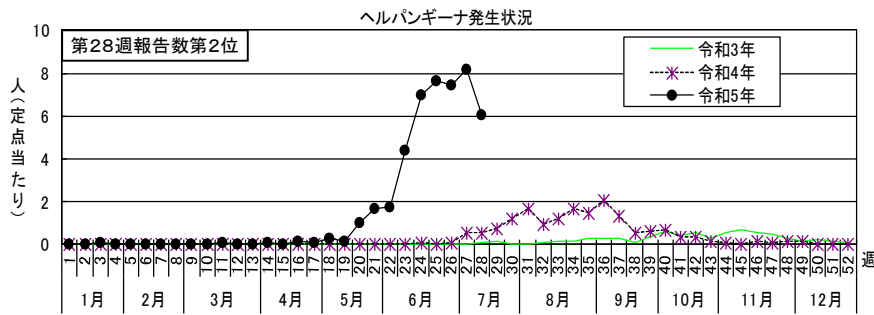
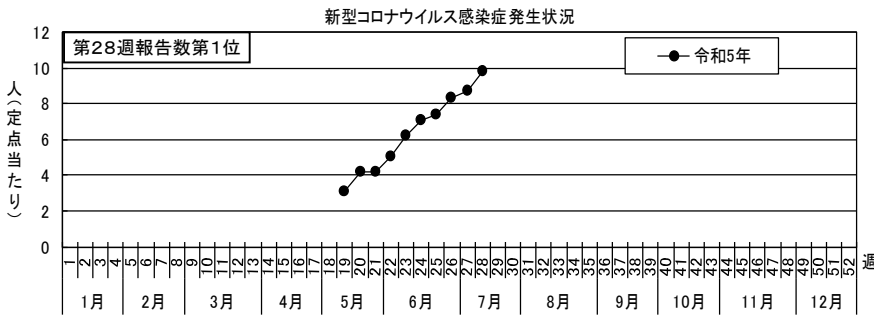
令和5年7月10日（月）～令和5年7月16日（日）〔令和5年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 新型コロナウイルス感染症 2) ヘルパンギーナ 3) 感染性胃腸炎でした。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は9.79人と前週（8.75人）から増加しました。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は6.08人と前週（8.14人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.95人と前週（3.76人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



こんな病気にも気を付けて！～破傷風～

破傷風は、傷口から侵入した破傷風菌が体内で増殖し、毒素を産生することによって、筋肉の硬直やけいれん等が生じる感染症です。全身性破傷風の場合は、呼吸ができなくなり死に至ることもあります。破傷風菌は土壌に広く分布しているため、刺し傷や火傷などの傷口を土等で汚染されたまま放置すると、感染する危険性が高くなります。特に被災地などで作業をする場合は、厚底の靴等を着用してけがを防ぐことが重要です。

破傷風の予防にはワクチン接種が非常に有効であり、国内では小児を対象とした定期接種の導入により、報告数は激減しました。破傷風含有ワクチンを確実に接種するとともに、けがをした際には傷口をしっかりと洗いましょう。

破傷風とは

【病原体】

破傷風菌（土壌等の環境に広く分布）



【感染経路】

創傷部位に感染

※人から人に感染することはありません。

【潜伏期間】

3～21日間（多くは8日以内に発症）

【症状】

口が開けにくい、嚥下困難、手足や腹部等の筋肉の硬直や痛みを伴うけいれん、頻脈、多汗等

破傷風を予防するためには？

破傷風含有ワクチン(DPT-IPV等)の定期接種

<第1期>

・初回接種

生後2か月～12か月の期間に20日以上（標準的には20日～56日）の間隔を置いて計3回

・追加接種

3回目の接種から6か月以上の間隔を置いて1回

<第2期>

・11～12歳の期間に1回

傷口の処置

・傷口を洗浄し、泥や土を取り除く。

・刺し傷等の深い傷は、医師等に相談し消毒を行う。